

※募集は終了しています。

## 【但馬空港のコンセッション事業にかかるサウンディング型市場調査実施結果】

1 参加事業者数 4者

2 サウンディング調査結果の概要

サウンディング調査において、参加事業者からいただいたご意見等の概要は以下のとおりです。

### 空港運営事業にかかる参入意向の確認

現在の状況及び条件では参入は難しいが、条件緩和の際には参入を検討したい。

第2期(R2.4～R7.3)コンセッション契約と同条件であれば参入する。

### 空港ターミナルビル、空港用地等を活用した事業のアイデアに関する提案

- ①空港内へ足湯を設置
- ②地産地消の製品を空港内で販売
- ③空港屋上で養蜂し、蜂蜜加工製品を空港内で販売
- ④学生に向けた空港内の職業体験・見学
- ⑤空港キャンプやグランピング
- ⑥但馬空港経由でのインバウンド富裕層向けアクセスの開拓
- ⑦空港周辺への商業施設の併設
- ⑧富裕層をターゲットにしたビジネスジェットの誘致

### 施設の管理運営状況等に関する質疑応答

- Q1. 一般的にコンセッションは長期間が多いが、但馬空港はなぜ5年間なのか。  
A1. 全国初のコンセッション実施空港であるため、指定管理に準じた5年契約とした。
- Q2. 霧で滑走路が見えにくい等、気象条件にかかる対策を教えてください。  
A2. 北向き進入はローライザーを設置している。加えてSBAS導入も進めている。
- Q3. 但馬空港運営事業等実施方針 11 頁に記載の「不可抗力発生時の県による施設復旧措置を必要としない場合」とは、どのような場合を想定しているか。  
A3. 県が本事業の対象となる施設等について加入する建物共済によって補填してもなお、当該施設等の復旧に100万円未満の費用を要する場合及び不可抗力の発生が運営権者の維持管理上の過失による場合等を想定している。
- Q4. 現運営権者による観光誘客状況を教えてください。  
A4. 空港を活用した観光誘客は、但馬空港の利用促進に取り組んでいる但馬空港推進協議会が実施しており、現運営権者は空港の維持管理と空港周辺の賑わい創出を担っている。現状では但馬空港推進協議会と現運営権者がうまく連携できていると認識している。
- Q5. 民間による収益性の確保ができた場合、兵庫県は補助金減額を目指しているか。  
A5. 目指している。補助金額の減額は、コンセッションの目的の1つである。
- Q6. 周辺空港である鳥取空港との関係性を教えてください。  
A6. 現状はほとんど連携できていないが、地域発展のために、航空会社の垣根を越えて運営権者同士でより密に連携することを期待する。

Q7. 地元企業と但馬空港との関係を教えてほしい。

A7. 但馬空港を盛り上げていこうという声はあるが、地元企業が運営権者になりたいという声はない。

Q8. 羽田就航に向けた状況を教えてほしい。

A8. 羽田空港は混雑空港であり、現実的に就航できる機材が限られるため、現状はなかなか難しい。

#### 事業実施にあたっての意見

- ①プロフィットロスシェアのような枠組の導入
- ②予測不能な事象（世界的パンデミック等）に対する配慮
- ③空港運営に必要な補助金の確保
- ④単年度にこだわらない補助金の運用
- ⑤建物維持管理費の県負担の維持
- ⑥補助金額の算出方法
- ⑦混合型コンセッションの継続
- ⑧他空港を参考にした現運営権者以外も参入しやすいコンセッションの仕組みの検討
- ⑨コンセッション契約期間を一般的な 20～30 年程度に延長
- ⑩第 3 期(R7. 4～)コンセッション契約期間について
- ⑪機材所有条件の緩和
- ⑫参入条件の定期的な情報共有
- ⑬出資比率について
- ⑭運営権者と設置管理者の役割分担の明確化
- ⑮路線の就航及び利用促進に関する自治体支援継続
- ⑯現運営権者との関係性構築
- ⑰地元との関係性構築・県からの人材派遣
- ⑱滑走路延長と RESA に関する対応を継続的に進めること

担当者：土木部空港政策課 松原

T E L : 078-362-3561

メール：kukoseisaku@pref.hyogo.lg.jp